

## 平成 26 年度開催の概要

## 1 概要

森林組合トップセミナーは、森林組合および森林組合連合会等の経営層を対象とし、全国森林組合連合会との共催で開催している、森林組合系統における最大のイベントです。7 回目の開催となる今回のセミナーでは、新たな木材需要として期待される、木質バイオマスに造詣の深い久保山 裕史先生（独立行政法人森林総合研究所 林業システム研究室長）にご講演いただく予定です。

また、本セミナーでは、森林再生基金事業発表会を併催しており、森林再生基金（FRONT80）<sup>\*1</sup> の助成先より事業成果等を発表いたします。

※ 1 「農林中金 80 周年森林再生基金」（通称：FRONT80）は、当金庫の創立 80 周年を契機に組成した公益信託です。当基金は平成 25 年度をもって助成を終了いたしました。今年度から後継基金として「農林中金森林再生基金」（通称：農中森<sup>もりちから</sup>力基金）を設立しております。当金庫は、国内の荒廃した民有林の再生に資する非営利団体の事業・活動に対する支援に、引き続き取り組んでまいります。

## 2 主なプログラム

7 月 31 日(木)	
13 時 30 分	主催者・来賓あいさつ
14 時 00 分	基調講演 (講 師)久保山 裕史先生(独立行政法人森林総合研究所 室長) (テーマ)「木質バイオマスの供給拡大に向けた取り組みについて」
15 時 45 分	第 8 回森林再生基金事業発表会 (前半)
17 時 00 分	閉会
8 月 1 日(金)	
8 時 50 分	第 8 回森林再生基金事業発表会 (後半)
11 時 00 分	特別講演 (講 師)吉川 隆久先生(変革クリエイター) (テーマ)「変革のチャンスは今～元気の出る意識改革～」
12 時 30 分	閉会

## 第8回森林再生基金助成事業の内容

助成対象先	事業の概要と評価のポイント
つるいむら 鶴居村森林組合 (北海道)  対象地面積 145 ha	<b>事業名： 低コストでつくる林業専用道と作業システム（水土保全に配慮して）</b> 当地域は、路網密度が低く、また、これから間伐を進めようとしているIV、V 齢級の若齢林分は低質材が多いことから、これらの利用間伐を推進していくため には、路網開設、素材生産の一層の低コスト化が必要となっている。 当事業では、トラックが走行可能な作業道を低コストで開設し、これまで取り 組んできた林業用トラクターによる作業システムとの組合せにより全体のコス トを縮減し、森林所有者の負担を軽減しつつ若齢林分における利用間伐を推進 し、循環的な森林施業を目指すという取組みが評価された。
いしのまきちく 石巻地区森林組合 (宮城県)  対象地面積 58 ha	<b>事業名： 「復興の森林(もり)プロジェクト」～木質バイオマス資源（C・D材）            の活用による林業復興～</b> 当組合では、これまでA・B材を主体とする林分を中心に集約化施業を進めて きたことから、C・D材の割合が多い当地域の林分は手付かずの状態で放置され、 多面的な機能が十分発揮されないおそれがある。 当事業では、管内でバイオマス発電が計画されていることもあり、石巻市にあ る当該森林を「復興の森林(もり)」と名づけ、木質バイオマス資源（C・D材） 活用による採算の取れる林業の復興で、山林所有者の山に対する関心を高め、林 業の明るい未来を感じてもらおうことを目指すという取組みが評価された。
ふくいし 福井市森林組合 (福井県)  対象地面積 204 ha	<b>事業名： 里山再生事業と龍興寺跡の融合で地域活性化～朝倉氏族の遺跡～</b> 当地域は、標高も低く、集落に近い里山林であるものの、朝倉氏遺跡周辺とい うこともあり、作業道が開設されず、集約化施業が敬遠され、森林管理が放棄さ れている地域である。 当事業では、森林と遺跡を共存させることで、森林所有者、地域住民等から森 林整備への理解を得たうえで、その集約化を行い、低コストでの利用間伐を実現 するために、路網の開設方法、作業システムの検証・構築を行い、里山林の活力 回復、地域の活性化を目指すという取組みが評価された。
ながの 長野森林組合 (長野県)  対象地面積 116 ha	<b>事業名： カシノナガキクイムシから守る！～野尻湖の豊かな里山林再生事業～</b> 当地域は、野尻湖湖畔に位置する国立公園にも指定されている里山広葉樹林で あるが、薪炭林として利用されなくなり放置されたことから、立木は大径化し、 カシノナガキクイムシ被害の脅威にさらされている。 当事業では、広葉樹林において、作業道開設による作業システムの検証・構築、 伐採木の全木活用による販売収入の確保等に努め、放置された二次林を資源とし て有効活用するとともに、萌芽更新を促し、再生コストのかからない持続可能な 森林経営を目指すという取組みが評価された。
ふじ 富士森林組合 (静岡県)  対象地面積 56 ha	<b>事業名： 「生産量増加を目指す段階」としての富士プロ第2ステージの構築に向けて</b> 当地域は、富士山南西山麓の緩傾斜地で、蓄積も高く、積極的に木材生産を行 っていく地域であるが、集落に近い森林でありながら、所有規模が小規模である こと、手入れが不十分で不採算林分が多いことから整備が遅れている。 本事業では、これまで採算性が低いとしてきた林分でも持続的な林業経営が出 来るよう、更なる低コストでの作業システム、B・C材を含めた販売システムの 確立により、富士プロ第2ステージとしての競争力のある安定供給体制を構築し、 森林所有者の関心を高めていくという取組みが評価された。

<p>おおさかふ</p> <p>大阪府森林組合 (大阪府)</p> <p>対象地面積 67ha</p>	<p><b>事業名： 多様な木材利用による里山の資源循環モデルの構築</b></p> <p>当地域は、里山的利用が行われてきたが、昭和40年代以降拡大造林が進み、V～IX齢級主体の未成熟人工林とマツクイムシ被害やナラ枯れ被害が見られる天然林が混在する「里山森林」である。</p> <p>本事業では、対象森林を目指すべき森林のイメージによりゾーニングし、多様な木材利用（バイオコークス、ペレット等）に対応する効率的な路網整備、搬出間伐等の森林施業を実践し、そこから得られるデータを蓄積することで、里山林における資源循環モデルの構築を図るという取組みが評価された。</p>
<p>よしの</p> <p>吉野きたやま森林組合 (奈良県)</p> <p>対象地面積 110ha</p>	<p><b>事業名： 急傾斜地における作業道開設と施業集約化モデル実証事業</b></p> <p>当地域は、降雨量に恵まれた林業の盛んな地域であるが、地形的には急峻地が多く、架線による皆伐での施業形態が続き、搬出条件が良く、採算の取れる一部地域を除き、利用間伐は行なわれていない状況にある。</p> <p>本事業では、奈良県が推進している奈良型作業道に挑戦するとともに、車輛系・架線系の併用による低コスト作業システムを検証・構築し、この地域を集約化施業のモデルとして、森林所有者の林業への意欲を喚起し、荒廃森林の再生、山村の活性化につながる起爆剤にしたいという取組みが評価された。</p>
<p>とさのもり・きゅうえんたい</p> <p>NPO 法人 土佐の森・救援隊 (高知県)</p> <p>対象地面積 180ha</p>	<p><b>事業名： 自伐林業方式『集落営林型』確立による、民有林再生モデル事業の展開</b></p> <p>当地域は、急峻で雨量も多いことから、集中豪雨等による土砂災害等に細心の注意を払い、森林施業を行うことが必要である。そのような中で、当法人は、小規模自伐林業を復活・再生させることを目指して活動している。</p> <p>当事業では、集落住民が組織する事業体と協働して、簡易な作業道の開設と軽架線、林内作業車による作業システムを、低投資で算入し易い「集落営林型」の自伐林業のモデルとして実証・普及させることを目指すという取組みが評価された。</p>
<p>かごしまけん</p> <p>鹿児島県森林組合連合会 (鹿児島県)</p> <p>対象地面積 178ha</p>	<p><b>事業名： 急傾斜地区における災害に強い森林づくり</b></p> <p>当地域は、谷筋部やマツクイムシ被害跡地を中心に、スギ、一部ヒノキの造林地があるが、急傾斜地で、かつ鹿児島県特有のシラス土壌地帯であることから、路網整備が進まず利用間伐が遅れており、災害の危険性も高くなっている。</p> <p>当事業では、大学等と連携し、森林ゾーニング、その施業方法の検討、シラス急傾斜地における丈夫で簡易な作業道の開設方法や低コスト作業システムを確立し、これらをモデルにシラス急傾斜地での適切な利用間伐を指導・推進することで、災害に強い森づくりを目指すという取組みが評価された。</p>

(計9事業)

以上